

## &lt;代表値&gt;

屋外滞在時間：1.2 時間/日

## &lt;代表値のもととなる資料&gt;

塩津ら（1998）は、空間別の滞在時間量を調査し、1 日（24 時間）に占める屋外滞在時間の割合を属性別（社会人、大学生、高校生）に示している。調査は、1997 年 5 月下旬から 6 月中旬の平日と休日に行われた。調査対象者は 15 歳以上とし、著者らの知り合いを中心に調査票を配布している。調査票の配布数は 3,867 票であり、そのうち回収されたのは 2,080 票である。この調査での屋外とは、家の周り、庭、学校のグラウンドなど、屋内及び乗り物の中でない場所をさす。平日の屋外滞在時間割合は全体で 5%，属性別（社会人、大学生、高校生）では 4～10%となっており、高校生の屋外滞在時間が他の属性と比べ長くなっている。また、休日は全体で 8%，属性別では 6～11%と平日と比べ屋外滞在時間は長くなっている。

1日に占める屋外滞在時間の割合（%）

平日	全体 (n=1,812)	社会人 (n=1,151)	大学生 (n=319)	高校生 (n=342)
	5	4	5	10
休日	全体 (n=1,760)	社会人 (n=1,129)	大学生 (n=304)	高校生 (n=327)
	8	7	6	11

出典：塩津ら（1998）

平日における全体での屋外滞在時間の割合である 5%を代表値とすると、その 1 日に占める時間は 1.2 時間となる。

## &lt;追加的情報&gt;

なし

## &lt;数値の代表性&gt;

◇ 代表値の信頼性：中

調査時期が、5 月下旬～6 月中旬であり、対象者が著者らの知り合いを中心としている。追加情報も得られていない。

◇ 代表性に関する情報

サンプル数は平日全体で 1,812 人、休日は 1,760 人であるが、調査対象者は、著者らの知り合いを中心としている。

◇ 入手できた資料の数

上記の 1 資料のみであった。

### <引用文献>

塩津弥佳, 吉澤晋, 池田耕一, 野崎淳夫 (1998), 生活時間調査による屋内滞在時間量と活動量 室内空気汚染物質に対する曝露評価に関する基礎的研究 その1, 日本建築学会計画系論文集, 511: 45-52.

### <更新履歴>

2007.3.30 / 文章の体裁を整えました

### 米国 EPA 暴露係数ハンドブックでの推奨値

米国 EPA 暴露係数ハンドブックでは, 屋外滞在時間の推奨値は 1.5hr/day と設定されている。この推奨値のもととなった資料である Robinson and Thomas(1991)では, 1987-88California Air Resources Board (CARB) の活動時間調査と 1985 National Study の American's Use of Time のデータを比較している。CARB の活動時間調査は, カリフォルニア在住の 18 歳以上を対象とし, 前日 1 日における活動とその場所を調査している。一方, 1985 National Study では, 12 歳以上を対象に全米より 5,000 人以上を選出し調査を行っている。Robinson and Thomas(1991)では, 用いた両調査において 18 歳以下, 65 歳以上の者は除外し, データの比較を行っている。2 つの調査での平均値に差がないので, それらを平均したものを推奨値として設定している。